

## 5．資料編

- 1．熊本市の概況
- 2．熊本市のバス事業の現状
- 3．各種計画について
- 4．用語集
- 5．「熊本市におけるバス交通のあり方検討協議会」について

## 1. 熊本市の概況

### (1) 概要

本市は、九州の中央部近くに位置する中核市で、人口は約 68 万人（九州では福岡市、北九州市に次いで 3 番目）、面積は約 287km<sup>2</sup>である。近隣市町村を含めた都市圏人口は 100 万人を超えており、熊本県の人口の 5 割以上を占めている。

日本三名城の一つである熊本城を有し、肥後 54 万石の城下町として発展してきた。九州の地理的中心に近い位置にあることから、戦前は国の出先機関が置かれ、行政都市として栄えた。戦後、これらの機能の多くは交通機能の発達等により福岡市に移ったが、現在でも財務局や国税局など一部の国の出先機関や陸上自衛隊西部方面総監部が置かれている。相次ぐ近隣町村との合併により、昭和 52 年には人口が 50 万人を突破し、平成 3 年には北部町・河内町・飽田町・天明町との合併に伴い人口は 60 万人を突破、平成 8 年には、改正地方自治法に基づく最初の中核市の一つとなった。平成 20 年 10 月には富合町との合併に伴い、現在の市域となった。

市民の上水道を賄う清冽な地下水と「森の都」とうたわれる美しい緑に恵まれ、熊本城を中心に歴史的な文化遺産が数多く点在する、自然や歴史的環境ゆたかな都市である。

また、九州新幹線鹿児島ルートが、平成 23 年春に全線開通する予定であり、これにより熊本駅・博多駅間が現在の所要時間の半分以上の約 35%で結ばれることになる。

〈参考：熊本市及び熊本都市圏の規模〉

資料：熊本県推計人口調査 H20.10.1 現在

|          | 人口        | 対県割合   | 世帯数     | 対県割合   | 面積(km <sup>2</sup> ) | 対県割合   |
|----------|-----------|--------|---------|--------|----------------------|--------|
| 熊本市      | 679,013   | 37.3%  | 280,941 | 40.8%  | 287                  | 3.9%   |
| 熊本都市圏（注） | 1,031,723 | 56.6%  | 402,688 | 58.5%  | 1,182                | 16.0%  |
| 熊本県      | 1,822,155 | 100.0% | 687,852 | 100.0% | 7,405                | 100.0% |

〈注〉熊本都市圏構成市町村は、熊本市への通勤通学率が概ね 15%を超える、熊本市と 3 市 9 町 1 村（宇土市、宇城市、合志市、城南町、玉東町、植木町、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町）としている。

### (2) 位置・地形等

本市は、東経 130 度 42 分、北緯 32 度 48 分に位置し、福岡市から南へ約 110km、鹿児島市から北へ約 180km、熊本県の中央部よりやや北側に位置しており、有明海に面し、坪井川、白川、緑川の 3 水系の下流部に形成された熊本平野の大部分を占めている。

また、阿蘇山系と金峰山系との接合地帯の上に位置する本市は、数多くの山岳、丘陵、大地、平野等によって四方を囲まれている。市の北東部や東部は、一部に立田山や託麻三山、白川沿いの河岸段丘など起伏のある地形もあるが、全体としては阿蘇外輪山へと続く火山灰土からなるなだらかな丘陵地となっている。南部は熊本平野の一角をなし、田園風景が広がる。市の西側は干拓地で地形的な変化は少なく、西北部は金峰山系の急斜面の山が連なっている。



### (3) 歴史

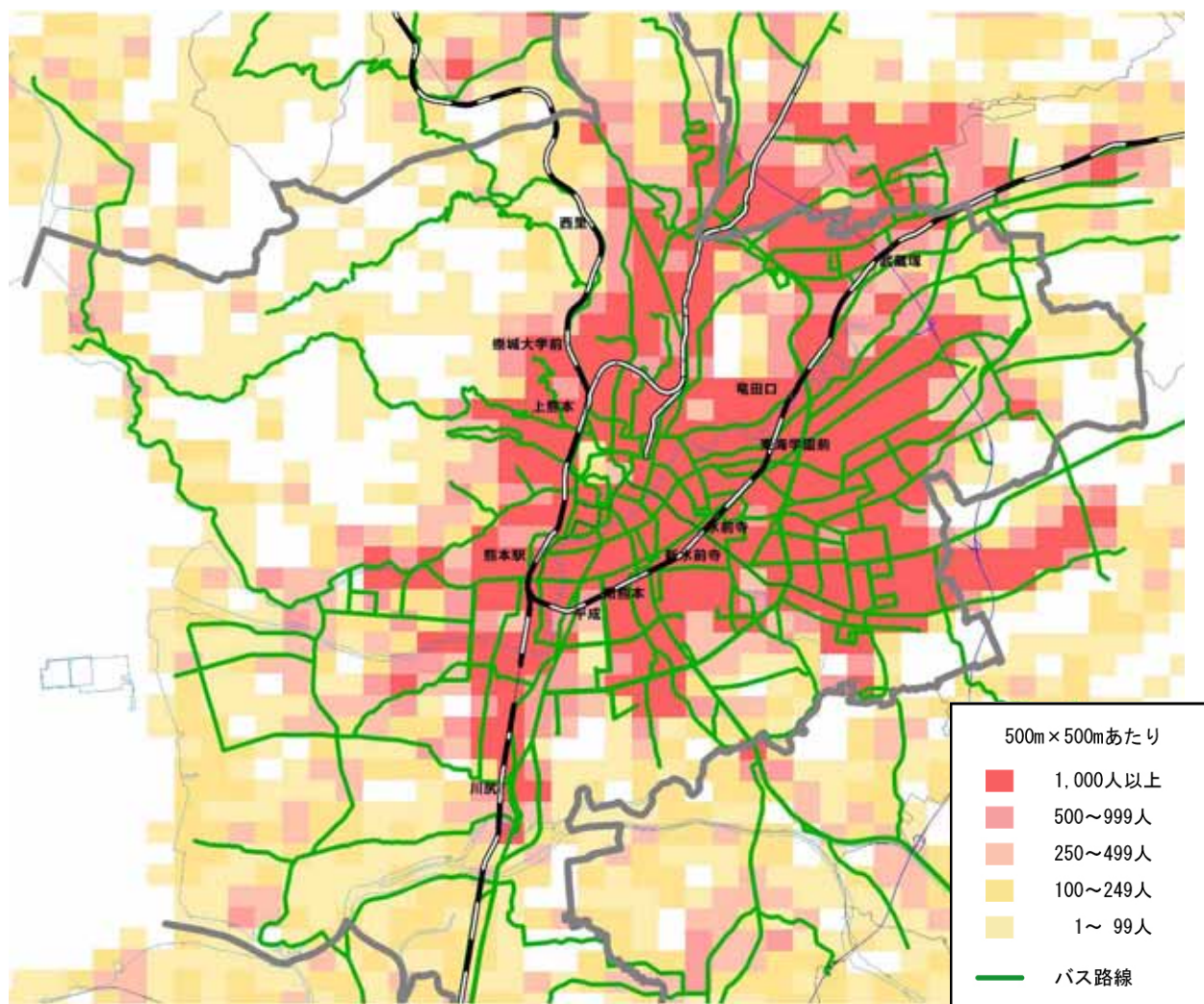
1588 年に加藤清正が隈本城に入城して統治を開始し、治山治水や干拓による土地開発などを積極的に行い、荒廃していた土地を改良し生産力を向上させた。清正は 1607 年に新たな隈本城を築き、その後、当地の呼称を隈本から熊本へと改名した。これ以降、熊本は城下町として発展してきた。

明治時代には、熊本は九州の中央部にある主要都市ということで九州の中核と位置づけられ、熊本鎮台・第五高等学校など、九州を管轄する各種の国家機関が設置されるなど九州の中心として位置づけられていたが、昭和以降、特に戦後は日本の産業構造の変化により、商工業生産力の高い福岡県の中心である福岡市へと移っていった。1970 年代の山陽新幹線博多開業や福岡市の政令指定都市移行はその流れに拍車をかけた。しかし、現在でも九州を管轄する国の機関の一部は本市に置かれており、九州総合通信局、九州財務局、熊本国税局（南九州 4 県が管轄区域）、九州農政局、九州森林管理局、陸上自衛隊西部方面総監部、日本郵政公社九州支社などが存在し、官公庁の街として発展してきた。



## 2. 熊本市のバス事業の現状

### (1) 熊本市の人口分布



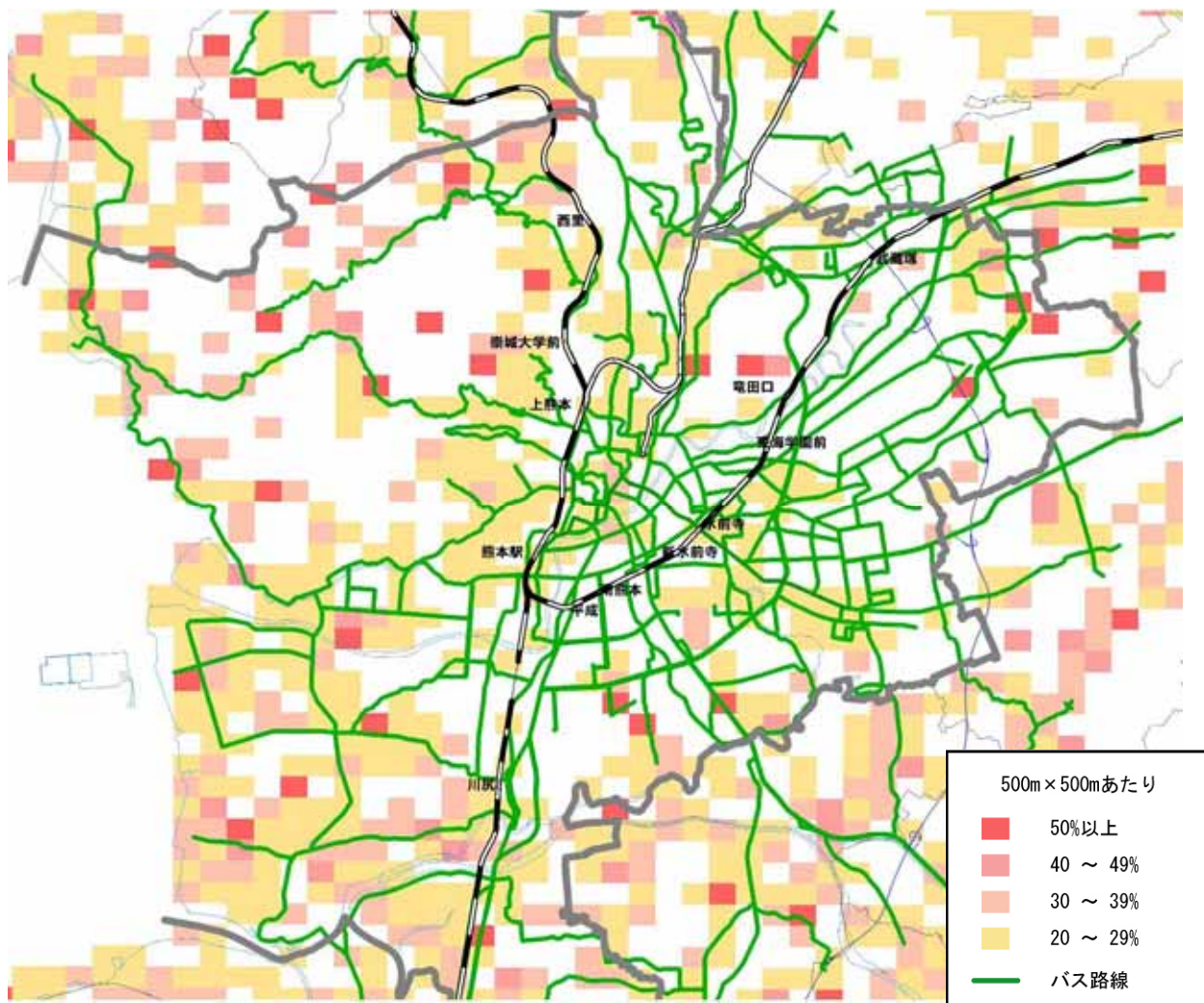
▲人口分布

資料：国勢調査（H17）

- ◆ 熊本市の人口は、中心部から北東部方面に集中しており、バス路線沿線には多くの人口が分布している。
- ◆ 北西部～西部方面や南西部方面においては、一部空白地域が見られる。



## (2) 熊本市の高齢化分布



▲高齢化分布

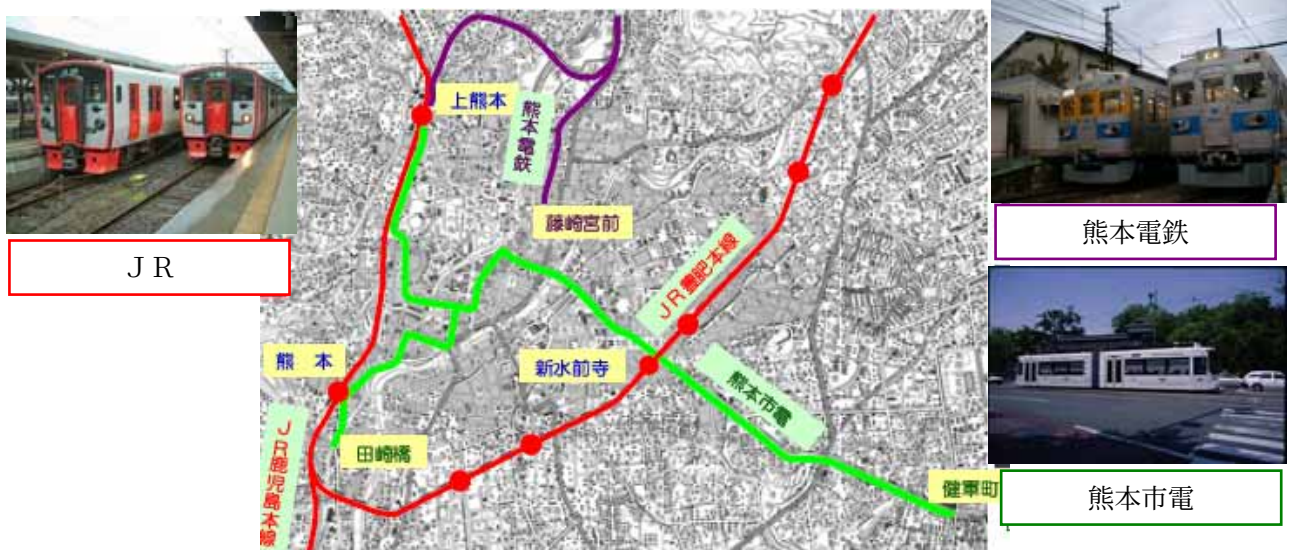
資料：国勢調査（H17）

- ◆ 熊本市の高齢化率（65 歳以上の割合）は 18.5%であり、中心部から北東部方面にかけては概ね 20%より低くなっている。
- ◆ 一方、バス路線網密度が低い北西部～西部方面や南西部方面においては、多くの地域で 20%以上となっており、50%を超えている地域も見られる。

### (3) 熊本市の公共交通網



▲熊本市のバス路線網

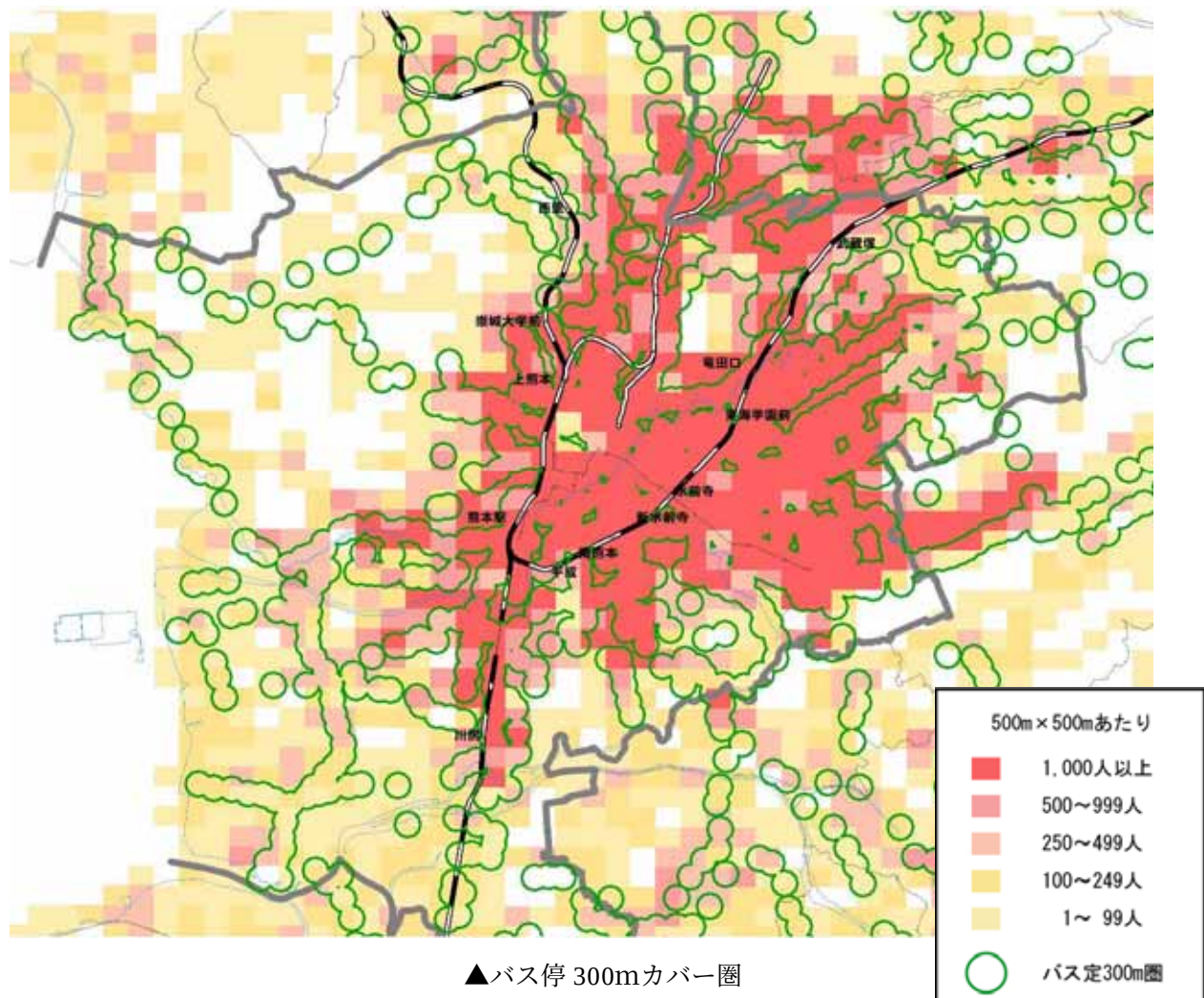


▲熊本市の鉄軌道網

- ◆ 熊本市のバス路線網は、市営バス＋民間３社（熊本電鉄、九州産交バス、熊本バス）で構成され、交通センターを中心に放射状に形成されており、熊本都市圏では１日に約 97,000 人が利用している。
- ◆ 鉄軌道網は、ＪＲ、市電、熊本電鉄から構成され、１日約 55,000 人が利用している。



#### (4) 路線バスの人口カバー率

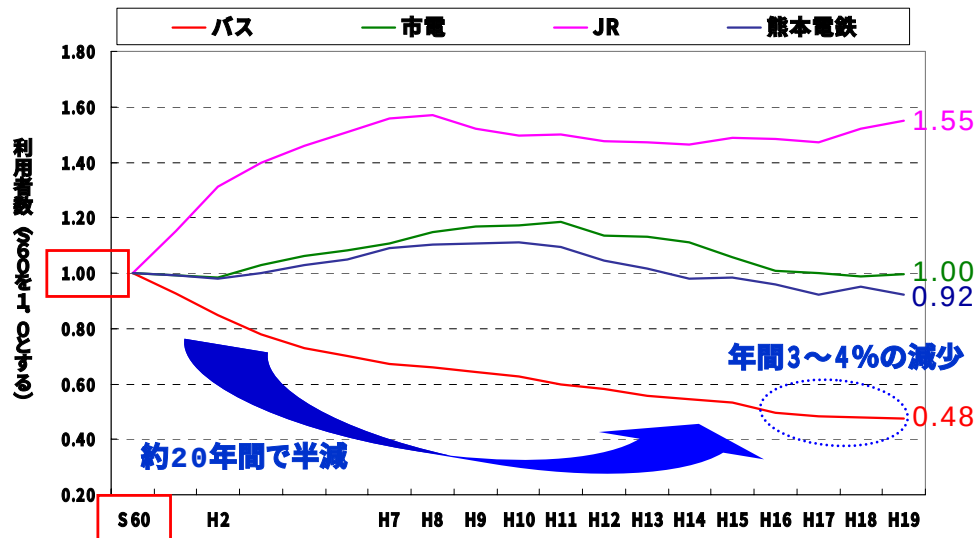


※人口カバー率 **約 78%**＝約 52 万人／約 67 万人

資料：国勢調査（H17）

- ◆ バス路線網は、熊本市全域をほぼ網羅しており、バス停 300m 圏においては人口の約 78%をカバーしている。

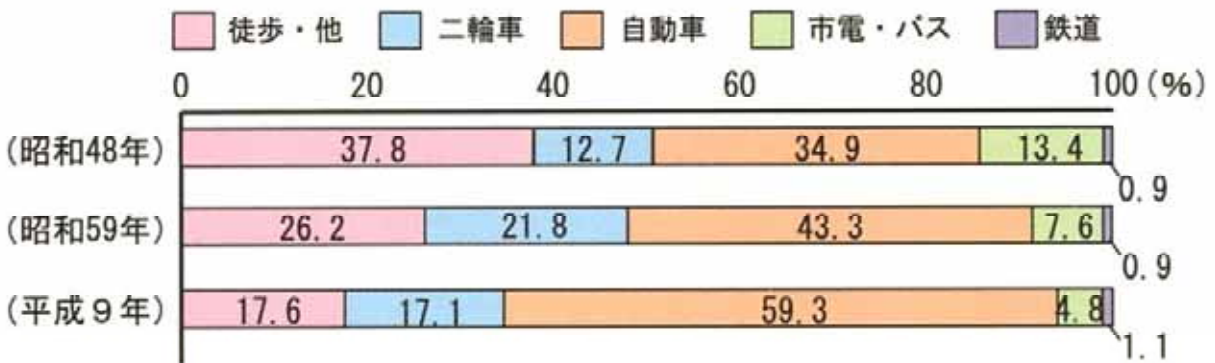
## (5) 公共交通機関の利用者数の推移



▲公共交通機関の利用者数の推移

◆ バスの利用者数は、約 20 年間で半減し、この 10 年においても約 3 割減少している。

## (6) 利用交通手段の構成



▲利用交通手段の構成

資料：熊本都市圏PT調査結果

◆ 自動車利用者が増加している。鉄道利用は変わらないが、バス利用は大きく減少している。